

写 真 の 整 備

【写真の整備及び処理】

- 1 工事着手前及び工事中の記録写真は手札判以上とする。
- 2 天災または出水の際は、被災状況及び出水の状況を撮影し、記録しておくこと。

【提出用写真の添付方法】

- 1 台紙の大きさは原則として、A4判とする。
- 2 表紙には、工事名・工事個所・着手年月日・竣工年月日・施工者名
- 3 写真の添付は、最初竣工写真（全景）と着手前写真（全景）を添付し、対照し得るように整理すること。
- 4 工事中の写真は、工程表に沿い各工種について施工の進捗に応じ代表的な各出来形（床掘、基礎、胴込、裏込、法長、型枠、組立、配筋及び型枠取外し後の出来上りの状況、寸法等）を添付する。

【各工種の撮影】

1 一般事項

各出来形の撮影に当っては、床掘の深さ・幅、基礎工事の厚さ・幅、配筋、胴込・裏込厚及び型枠の取外し後の出来形寸法が明確に判定できるようにし、かつ工事名、工種、撮影年月日、位置、設計略図及び寸法等を記入した小黒板をおいて撮影すること。

2 工事着手前及び工事竣工写真

全景を原則とし、1枚に入らない場合は、数枚としてもよい。

同一撮影位置から撮影すること。（立木、電柱、家屋等の対象物を入れ撮影すれば対象が容易である。）

3 床掘

床掘の深さ、幅等が容易に判るように撮影すること。

4 石積及び擁壁

延長20mに1ヶ所程度の割合で基礎の工法、裏込厚、構造物の幅・高さ（法長）等を撮影すること。

構造物の幅は法面に直角または水平に、法長及び高さは埋戻し面より上で中間点まで撮影すること。

5 管工

断面状況と配管状況が判明できるように撮影すること。

6 籠工

水中に没するものの詰石の大きさ、形状寸法等を撮影すること。

7 橋台、橋脚、床版工

水中に没する部分の形状寸法、配筋状況は必ず撮影すること。

8 路盤工

路盤工は、工程ごとで厚さ、地耐圧検査状況等を撮影しておくこと。